会　報
Vol.25　No.1　通巻 139 発行日　2023.03.12

# Der Wind
（風）

湘南日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan
事務局:〒251-0025　藤沢市鵠沼石上 1－1－1
江ノ電第2ビル7F
Tel:0466-26-3028　Fax:0466-27-5091
E-mail:jdgshonan.official@gmail.com　http : //jdg-shonan.ciao.jp/

## 湘南日独協会創立25周年を前にして

常務理事　大沢由美子

上のチケットは、2000年に初めてドイツフェアに参加した時のものだ。

好奇心と期待感で6時には会場に到着。「席は自由席ですからどうぞ」と言われ、最前列中央のテーブルに座る。間を置かずして　お一人様らしい年配の女性が隣に座る。

「おひとりなの・・・」と優しく声をかけてくる。あれこれ話をしていると　突然その女性は「〇〇く～ん、入会手続き一式もってらっしゃい」と大声で言うや、〇〇君は飛んできて恭しく入会手続きの用紙をボールペンと共に私の前に置く。

乾杯の時には、めでたく？？私は湘南日独協会会員になっていた。

（年配の女性も〇〇君も湘南日独協会の理事で　その後も大変お世話になりました。）

その頃は、講演会と会員懇話会が隔月で行われていた。ほぼ、毎回出席をした。

小塩節氏の「芭蕉とゲーテ」，高嶋泰二氏の「ことわざの泉」、クライナー氏の「近代のドイツ精神史および文化史における日本」等、今でもよく思い出す感動した講演だ。

私感だが、年を追うごとに講演の内容がドイツから日本へという一方通行的な講演が多くなってきたように思う。「ドイツでは〇〇なのに日本では▽▽で遅れている」というような話を聞くと、歴史教育が自虐史観と言われているが「この講演も自虐史観的講演だ」と一人憤慨している。また、明治維新の日本がヨーロッパ列強から「教えて頂いた」という受け身気質が残っているのかと残念にも思う。そんなことから、最近はもっと日本文化を知りたい、もっと日本文化を発信したいと思うようになった。

そんな折、たまたま日経新聞（2月1日付）の「兎のかたち十選（十）」を読んだ。上村松園の「待月」という美人画である。欄干に寄りかかり外を見ている女性の後ろ姿が描かれている。この絵を見たら、「待月」という題名から「この女性は月の出を待っているのね、雰囲気がある～」という感想で終わってしまいそうだ。しかし、学習院女子大学教授　今橋理子氏の説明では月を待っているのではないのだ。

女性が手にしている団扇には雪輪文の模様がここから「雪」を思い浮かべ、帯の模様の波に兎から「月」を思い浮かべ　着物の紋には蝶が蝶と言えば花を思い浮かべることで「雪月花」という言葉にたどり着く。

「雪月花」は白居易の詩「寄殷協律」の一節「雪月花時最憶君」から来たものだ。遠く離れた友を雪や月や花を見るたびに思い出すという内容だ。ここで「女性は友人を待っていたのね」と結論してはいけない。

この詩が日本に入ってくると「友」が「恋人」となり、この絵の女性は来るはずのない「恋人」を待っているのだそうだ。

この記事を読み、日本文化の奥深さを十分に噛み締めることができた。

しかし、最後の恋人という読み取りまでいかなくとも、題名「待月」とか「帯の兎と波の模様」とか「雪月花」とか一部分を切り口としても楽しむことができると思う。

このように奥深さと間口の広さがある日本文化を発信したいと思う。

令和癸卯雨水次候

＊令和みずのと兎24節気の2番目雨水、今年は新暦2月24日～28日旧暦2月5日～9日、1節気は15日、15日を3等分し初候・次候・末候という。

11月講演会

**「「ドイツに長く働いて見て」**

講師　　隅田　實氏（元東京三菱銀行ドイツ駐在）

日独協会東京　会員　　高橋忠夫

左：隅田氏　右：高橋氏

隅田氏の講演会が終わった後、私は少し呆然としていました。この講演会を何と表現したら良いのだろうかと。こんなに人生を熱く語った人を見たことがあったろうか。国の違い、性別の違い、年齢の違いを乗り越えて仕事をしてきた隅田氏の体験は漫然と日々を過ごす我々を叱咤激励し覚醒を促すものでありました。

長い間、ドイツで仕事を通じて仲間づくりの苦労を実践例、具体例などをユーモアを交えて、また、サッカーにおける日独の違いやいかに日本人プレーヤーがドイツのチーム(ブンデスリーガ)の一員になって行くかということなど興味は尽きませんでした。

講演は一方通行ではなく、2時間の途中でも質問や疑問はOKということで、参加者との活発な質疑応答がなされました。

隅田氏の凄い所は相手が例え、小学生であっても、外国人であっても、社会的地位の低い人、高い人であっても、常に本質は何かということを真摯に追及して学んで行く姿勢であると思います。

特に心に残ったのは我々日本人が世界に向かって出て行き学ぶことであると。巷間では盛んにインバウンドが語られておりますが、むしろこれからは積極的にアウトバウンドだということを強調されておりました。

言うまでもなく鉱物資源のない日本の唯一の資源は人間であり、最近の傾向として現状に満足し内向きになるのを非常に憂慮されておりました。

このようにして予定の2時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、その後、居酒屋「宗平」で美味しいお酒を飲みながらの談論風発と更なる詳細なお話は参加者を魅了致しました。

特に隅田氏のお話で強く印象に残ったのは社会に出て日本で銀行員として働き始めた際に氏を厳しく鍛えたのは女性の上司であり、その後ドイツで勤務した際にも仕事のやり方の眼を開かせたのはドイツ人女性の部下であったとのことでした。

そういえばシドニーに勤務していた際、私の右腕だった女性は難民としてオーストラリアに来たバイタリティある優秀な人だったことを思い出しました。

左：講演する隅田氏

下：懇親会

☆　　☆　　☆

**ドイツ語の笑い話**

Fragt der Arzt den Patienten mit starkem Husten: „Rauchen Sie etwa?“ – „Nein wieso!?“ – „Schade, sonst hätte ich es Ihnen verbieten können!“

医者が酷い咳をしている患者に、「ひょっとして煙草をお吸いになりますか？」患者、「いいえ、でも、どうしてですか？」医者、それに答えて曰く、「残念ですなあ、もしお吸いでしたら、止めるようにお薦めできたんですが…。

„Wird die Operation sehr teuer?“ fragt der Patient. Der Arzt lächelt. „Dieses Problem können Sie getrost Ihren Erben überlassen.“

「手術はうんとお金がかかりますか?」患者が訊いた。医者、微笑みながら曰く、「あゝ、その問題なら、安心してあなたの跡取りの方にお任せなさい。」

（故松野元会長の提供）

１月例会

**講演会　「エネルギー・気候変動危機対応の日独の比較、並びにSDGs持続可能な社会構築への産業界の動き」**

講師　ゲオルク・K・ロエル氏

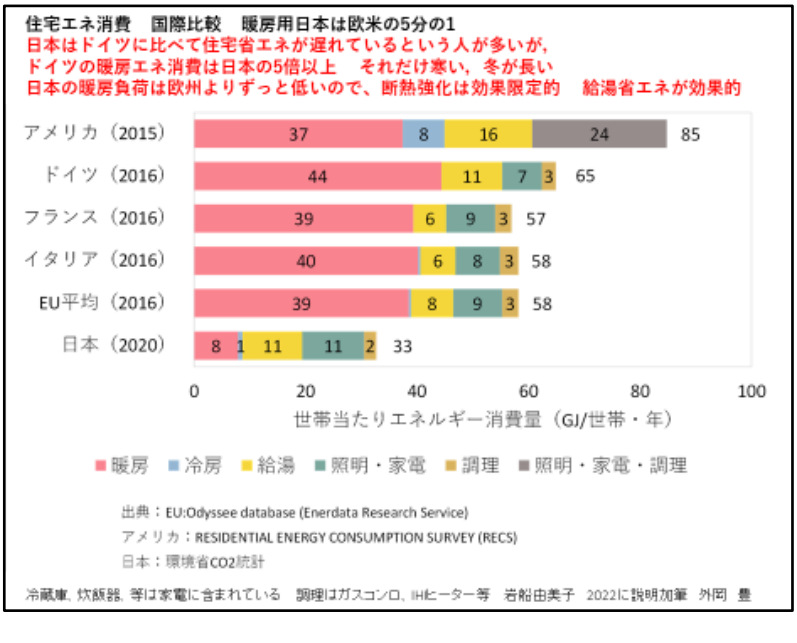
ドイツNRW Japan　社長

寄稿　藤沢市在住　外岡　豊氏

埼玉大学名誉教授、早稲田大学招聘研究員、エコステージ協会理事、低炭素社会推進会議幹事、
元 Imperial College London Visiting. Prof.

ドイツの最新事情の話を藤沢駅前で聞けると言うので湘南日独協会の講演会に飛び入り参加した。ロエル氏の説明でも出てきたようにドイツは再生エネルギー先進国である。付け加えると1991年には買い取り法EELが制定されていた歴史があり、風力、太陽光、各種バイオマスともに、また電力も熱利用も、どれも普及しているところが強み、再生エネルギーの普及がなかったらロシア天然ガスが止まった余波でもっと大変なことになっていただろう。フランスとの電力融通も話題になったが、欧州全体の電力網がつながっていることもドイツ国内の電力安定供給に寄与している。

NRW州のCN(カーボン・ ニュートラル)政策目標でも2030年までに褐炭火力を全廃するとされているが、かつては石炭火力発電が多かったドイツで、ここ数年で石炭火力の割合は下がってきており、着々と移行が進んでいるようである。石炭の露天堀採掘場の新設を市民運動で止めたというテレビ報道もあった。




石炭労組の力が強いドイツで脱炭素の移行が進んでいるのは、酸性雨でシュバルツバルトの森が枯れるというシュピーゲル誌の記事（1981）や、チェルノブイリ原発事故(1986)を目の当たりにして環境問題への市民意識が早くから醸成されてきた積み重ねがあり、また市民が政策討議する社会慣習があるところが、日本とは様子がだいぶ違うのだろう。ここはドイツから学んで、日本でも石炭火力や原発についてじっくり討議してほしいところである。

NRW州には水素関連で技術交流できそうな会社もたくさんあるようで、グリーン水素利用の具体化、実用化を両国の協力で促進することを期待している。知られていないが隠れた技術を持った『非電解型グリーン水素』企業が富士山麓にあり、水に、ある鉱物系の物質を入れると酸素と水素に分解する(水素製造・山本泰弘特許2021)。

電解より仕組みが簡単で、m3当30円以下の廉価で水素が得られる。数年前見学に行き山本氏の説明を聞いて確かめてきた。これを使った発電も既に事業化されている。大量生産できれば水素還元製鉄も可能であり日本の製鉄技術で世界を先導する期待も膨らむ。

また私は建築学会等で建物の排出削減、脱セメントを含めた建設時のLCA（ライフサイクルアセスメント）排出削減を含めて建物の気候危機対策について研究中で、図に示すように暖房負荷がドイツの5分の1しかない日本での住宅排出削減についても提言している。風呂の給湯エネルギー消費が多い日本ではCO2冷媒ヒートポンプ給湯器(俗称エコキュート)と屋根上PVC太陽光発電設置を組み合わせれば大幅排出削減ができる。断熱強化より効果はずっと大きい。 広範な分野でパリ協定達成に向けてぜひNRW州と日本の協力を推進していただきたいが、例えば日本のヒートポンプ技術は広く欧州にも適用可能で大幅排出削減に寄与できると期待している。このたびロエル氏から幅広く御話をうかがうことができ、良い勉強の機会を得て感謝しております。

ロエル社長

# ドイツ語講座のご案内

島　　新

会報「Der Wind」の読者の皆様、湘南日独協会では、ドイツ語講座を開講しているのをご存じですか。

入門、初級、中級1，中級2を土曜日の昼間に、この4月からは新たに上級会話コースをウィークデーの夜間に、開講の予定です。それぞれ生徒数人のクラスです。

ドイツ人のフリース先生と、日本人の中川先生とお二人の先生が隔週交互に授業を担当されます。中川先生は文法、発音、発声を主にして、会話をチェックし、フリース先生とは会話を主にして、ドイツ人の自然な表現、会話を学びます。この4月から新たに開講する上級会話コースは、ドイツ人のラトケ先生による、上級者のためのコースです。

授業は、コロナ禍の状況も落ち着いて来たようですので、この4月からは、オンラインと対面を交互に、すなわちフリース先生、ラトケ先生はオンラインで、中川先生は対面の授業（オンラインも可能の予定）となります。対面授業の場所は藤沢駅から徒歩5分の所にある、「ミナパーク」の5階の1室を予定しております。

教科書とCD等の音源を使います。これらは生徒各位がそれぞれ前もって自習をしておき、それに基づいた授業および、各位の自由な発表を元にした会話をするという形式を取っております。会話を通じたコミュニケーションの楽しさや、また、ここで勉強したドイツ語を元にして、ドイツ語の文学などの読書、新聞を読むなどの楽しみにつながるものと期待しております。そして何より、クラスの仲間達や先生方との交流の場をお楽しみ下さい。

2月初旬に、先生方を生徒達で囲んで、懇親会が大船駅ビルの7階にあるレストラン「AGIO」で開催されました。右欄に、その時参加した生徒の1人、井上洋美さんの寄稿文と写真を掲載致します。

中川先生

フリース先生

ラトケ先生

語学講座問合申込先:

：　中村茂子　（湘南日独協会）

Tel/Fax:　0467-43-2683

E-Mail: natalie@jcom.zaq.ne.jp

ホームページ：http://jdg-shonan.ciao.jp/

## 先生を囲んでの茶話会に出席して:

井上洋美　（ドイツ語講座受講生）

2月8日午後、大船のレストランにて、久しぶりに日本に滞在されているフリース先生を囲み、中川先生とドイツ語講座の受講生（以前受講されていた方々も含め）10名で「お茶会」が開かれました。

3年ぶりに直接お会いしたフリース先生、中川先生は全くお変わりなくお元気そうで大変嬉しく思いました。

又、この3年間コロナ禍によりオンライン授業となり、パソコンの画面のみでお会いしてきた何人かの方々に初めて実際にお目にかかり、新鮮で少し不思議な気持で感動してしまいました。皆さんもお互い同じ様に感じられたことでしょう。

「ドイツ語、ドイツに関する話題」を共通項に、お話しは尽きず本当に楽しいひとときでした。

お二人の先生ありがとうございました。

フリース先生のご近所に住み、時々偶然にお会いして片言のドイツ語会話を楽しんでいた私にとって、その様な機会がなくなり残念ですが、先生がこれからもドイツからオンライン授業を続けてくださるとの事感謝で一杯です。

又中川先生は4月から対面授業でお会いできるのですね。どうぞ宜しくお願い致します。

この貴重な機会を設けて頂き、役員の皆様本当にありがとうございました。

お茶会の写真　左側手前島さん４番目井上さん

## 「読書会ードイツ文学を原語で楽しむ会」のご案内

### Der Lesezirkel der deutschen Literatur

大久保　明

２０１９年１０月１日（火曜日）第1回を開催して以来、コロナ禍の中でも、使用会場の環境や各自の感染を防ぐ予防策に留意しほぼ中断することなく継続しています。

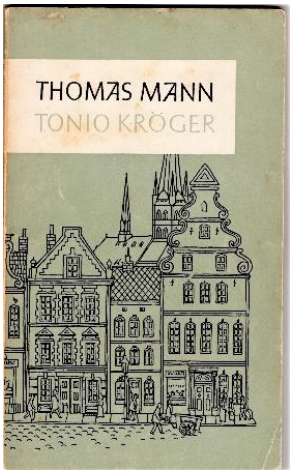
読書会発足は、２０２１年８月病気で急逝された、当時の湘南日独協会会長松野義明さんの熱い思いでありました。その開始に当たって松野さんは次のような呼びかけを致しました。

『昔、旧制高校や大学でドイツ語を勉強したけれど、それ以来、ドイツ語とはずっとご無沙汰、今やっと時間が出来たので、ドイツ文学を原語で読んでみたいと思ったことはありませんか。　定年退職後ドイツ語講座でドイツ語を勉強したので、折角だから、昔から憧れていたドイツの文学を、腰を据えてじっくりと読んでみたいと思ったことはありませんか。
あるいは、仕事で家族ぐるみドイツに長らく住んでたので、折角覚えた言葉をわすれないようにドイツ語に接していたいなどと考えていらっしゃる方はおられませんか、そんな方々のために、「読書会―ドイツ文学を原語で楽しむ会」を開設します。』

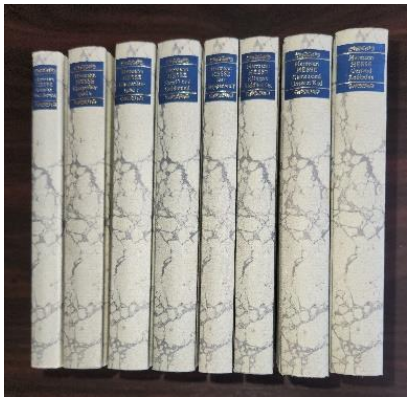
最初にHermann Hesse「Demian」を取り上げて始まりました。かなりの長編で苦労して続けて、毎回テキストの１～２ページの担当者が発表、意見の交換があり講師の松野さんより説明を受ける形で進めておりました。２０２１年８月松野さんの急逝後は時に三浦ハンナさんにご指導を頂き、”Demiann”を２０２２年７月、略３年を掛けて読み終わり、続いてHesse の”Augustus”を読み、現在Thomas Mannの”Tonio Kröger” の第６章を読んでいます。次に取り上げる作品を現在検討しています。ご関心をお持ちの方はご連絡ください。

Mail: akiraokubo@jcom.zaq.ne.jp

２月２１日の読書会：当日は１９１８年生まれの藤田さんなど欠席者がおり、写っていないメンバーが６名おります。




松野さんの蔵書のTonio Kröger 1969 Fischer 版同じ本をメンバーの斎藤さんもお持ちです。。



ヘッセ生誕１００年を祝って出版されたヘッセの作品全集文庫版　Suhrkamp社　1977年メンバーの藤田さんと大久保が持っています。

☆　　☆　　☆

### ４０年後に実現

読書会　参加者　大久保　明

私の本棚に４０年眠らせていたヘルマン　ヘッセ生誕１００年記念全集文庫版があります。１９７７年出版され、当時ドイツに駐在していた私は、記念にそして「いつの日か読もう」と心に誓っていたのが４０年を経てその１ページを開くことが出来ました。新聞など情報記事は多少読むことが出来ても、文学書それも１００年以上も前の作品は辞書を使用しても文法書を参考にしてもなかなか理解できません。それでもこの３年少しずつ理解出来るようになりました。メンバーの皆さんの支えにたすけられています。最近は物語の筋を追う以外に、表現の素晴らしさを知り、時には感激を覚えます。

劇場便り３２

ブレーマーハーフェン　　志賀トニオ

写真は「魔弾の射手」の舞台から

ブレマーハーフェン市立歌劇場では、１２月にウェーバー作曲の魔弾の射手、２月にオッフェンバック作曲の天国と地獄のプレミエがありました。私はそれぞれの演目を代振りする予定ですので、立ち稽古でピアノを弾くだけでなく、本指揮者がいないときには指揮も振りました。日本では代振りというと、病気になった指揮者の代わりにコンサートを指揮するイメージですが、ドイツでは演目ごとに本指揮者に加えて第２指揮者をあらかじめ決めておく事が多く、本番を振る回数を分担しています。その理由は、一演目ごとの本番の回数が多いからだと思います。ミュージカルは２０回、オペレッタは１５回、オペラは８回前後の本番がありますから、二人指揮者を配置しておいた方が仕事上融通が利くのです。オーケストラでも、同じような事が行われ、本番によって奏者が入れ替わります。ですので、指揮者がオーケストラピットを歩いて指揮台に立つまでにする最初の仕事は、実は"今日の奏者が誰か"を確認する事なのです。コンサートマスターも必ず２人以上で分担しますから、その日誰が演奏するかによって想像以上に変わるものです。そしてこのシステムこそが若手指揮者にとっては最大のチャンスとなるのです。私の場合、今まで多くのミュージカルとオペレッタの代振りをしてきましたが、オペラの代振りのチャンスはもらえていませんでした。３年前にカヴァレリア・ルスティカーナ/パリアッチというイタリア物のオペラ公演で音楽監督が病気になり、急遽私が振る事になりました。本来であれば、音楽監督の作品を私の立場で引き受ける事はないのですが、この時は大抜擢となりました。そして今シーズンはようやく正式にオペラ（魔弾の射手）の第２指揮者として抜擢されたのです。

魔弾の射手はドイツ人にとって特別な作品です。日本ではベートーベンのオペラ"フィデリオ"と並ぶ不人気の作品ですが、ドイツではこれぞ最初の正真正銘のドイツオペラであると見なされており、その作品を指揮出来る事は大変な誇りです。振り返れば、私がドイツの音大の指揮科を受験すると決めて最初に取り組んだのが、魔笛の夜の女王のアリアと魔弾の射手のアガーテのアリアでした。当時ミュンヘン音大教授だったブルーノ・ヴァイルさんの勧めでした。その後こちらもミュンヘン音大の講師だった方のプロダクションで魔弾の射手のコレペティトアを務める事になり、この時はコレペティトアは私一人であった為、全ての稽古を私が担当しました。このプロダクションはミュンヘン郊外の森の中で上演され、森の中にホルンが鳴り響くという、これ以上ないロケーションでした。

その後ブレマーハーフェン市立歌劇場に来て１年目に魔弾の射手をやる事になりました。その時の音楽監督はテツラフ兄弟の長男で、とても実力のある方でした。テツラフ兄弟といえば、バイオリニストのクリスティアンと、チェリストのターニヤが世界的奏者なのですが、長男のシュテファンさんが音楽監督の時は、その二人も定期演奏会の時にソリストとして弾きに来ていました。この時の魔弾の射手は同僚のコレペティトアが病気になった為、またしてもすべての稽古を私が弾くことに。この時の演出家は毎日８時間、時間いっぱい稽古する方だったので、へとへとになりました。この時はさすがにこれだけ沢山稽古で弾き、曲の事を知り尽くしてきたので、指揮をしてみたいという思いが強くなってきました。音楽監督の作品だから難しいと思いながらも、思い切ってシュテファン・テツラフさんにその希望を伝えました。しかし、残念ながら当時はそのチャンスはもらえませんでした。

そして今回、私にとって３回目の魔弾の射手。シーズンが始まって早々の会議で現音楽監督から代振りの話を頂きました。２月２６日と３月１日の公演を振る予定です。

**湘南日独協会混声合唱団アムゼルよりのお知らせ**

ドイツ語でのコーラスを楽しんでいる、合唱団アムゼルは本年2月15日に年次総会を開き、2022年度活動内容、事業収支決算、2023年度活動予定、事業予算が承認されました。

また、代表及び副代表、並びに事務局人事は新たに以下の方が選出されました。

代表：田中満穂、

副代表：志賀リンデ、峰松景子、大倉薫

事務局：田中幹夫。

2023年度のアムゼルの活動として,大きな目標の一つは本年10月7日にドイツ・ゾーリンゲンで行われる国際コーラス祭にビデオクリップでの参加を予定しており、そのビデオの制作準備を進めています。このコーラス祭にはドイツ国内のコーラスグループはじめ、世界の多くの国のコーラスグループが直接またはライブ、ビデオ参加を予定しています。アムゼルも現地での参加を検討しておりましたが、新型コロナの影響で、渡航する判断は出来ず、ビデオでの参加の方向で進めています予定の曲目は「さくらさくら」「荒城の月」モーツァルトの「クローエに」メンデルスゾーンの「歌の翼に」などを中心に練習をしています。

新しいメンバーも増えて楽しく歌っています。

練習会場は主に藤沢市鵠沼公民館、練習日は毎月第１、第３水曜午後１時３０分より３時３０分となっています。

下の写真は２０１９年秋の湘南日独協会のオクトーバーフェストの写真です。早くこのような日が来ることを楽しみに練習に励んでいます。

関心をお持ちの方は下記までご連絡ください。

見学も歓迎いたします。

代表　田中満穂

mail:mitsuhotluis2008@gmail.com

電話: 090-6512-3374

総会が終わり新しい出発、久しぶりの茶話会

２０１９年の湘南オクトーバーフェストでの演奏

**新入会員紹介**　敬称略

**高垣　孝**　　**萩原　由華**

.

**年次総会開催案内**

湘南日独協会の第２４回、２０２２年度の定時総会を下記の要領で開催いたします。

より多くの会員の皆様にご出席・ご参加頂けるよう心よりお待ち申し上げます。

第２４回定時総会：

日時：2023年４月２３日（日）13:00-14:00

会場：藤沢市鵠沼石上1-1-1 江ノ電第２ビル

７階　湘南アカデミア

電話：0466-26-3028

**年会費納入依頼**

４月より新年度に入ります。会報　Der Wind　の３月号（本誌）に振込用紙を同封しておりますので、年会費の納入をお願い申しあげます。なお、今年は湘南日独協会創立２５周年を迎えることになりました。記念の催し物も現在計画中であります。変わらぬご支援を頂きたく心よりお願い申し上げます。

**編集後記**

○連載中の「クラシック音楽の楽しみ方」は今回休載しております。高橋善彦氏（理事）の体調の理由によるもので、回復次第再開する予定です。

○会報をさらに充実させるために皆さんのご寄稿を頂きたくお願い申し上げます。（大久保）

# 湘南日独協会催事カレンダー(2023年03月～2023年07月) 3月01日現在の情報です

| | | |
|---|---|---|
| 3月 | 談話室SAS | 14日 (火)　15:15-17:15　江ノ電第2ビル　4階　会費：1,000円 |
| | SWZ | 16日 (木)　15:00-17:00　ミナパーク507　会費：1,000円 |
| | 講演会 | 26日 (日)　14:30-16:30　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　会費1,000円<br>演題：　メディア報道の問題点を語る<br>講師：　西谷晋氏 (元日本経済新聞社)<br>概要：　日本経済新聞社で、在西独の特派員、在英の欧州総編集局長を歴任され、日本においても、外報部デスク、英文日経編集長、テレビ東京解説委員長など、幅広く報道分野で活躍された方より、嘘、フェイクニュースが横行する昨今、メディア報道の問題点を語って頂きます。<br>懇親会：有り |
| 4月 | **見て聴いて楽しむ音楽史　(休会)** | |
| | 読書会 | 4日 (火)　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円<br>18日 (火)　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円 |
| | 談話室SAS | 11日 (火)　15:15-17:15　江ノ電第2ビル　4階　会費：1,000円 |
| | SWZ | 20日 (木)　15:00-17:00　ミナパーク５０７　会費：1,000円 |
| | 総会 | 23日 (日)　13:00-14:00　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア |
| | 講演会 | 23日 (日)　14:30-16:30　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　会費1,000円<br>演題：　朗読の窓からのぞいたドイツと日本<br>講師：　阿部ひろみ氏<br>概要：　朗読をする、朗読を聞くという視点から見るドイツと日本の文学<br>懇親会：有り |
| 5月 | **見て聴いて楽しむ音楽史(第19回)** | |
| | | 4日 (木)　14:30-16:30　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　会費1,000円<br>演題：　国民楽国民楽国民楽派の音楽(その1) 東欧の国民楽派<br>講師：　高橋善彦氏　(会員　湘南日独協会理事)<br>取り上げる曲：B.Smetana　我が祖国より交響詩 ″モルダウ(Vltava)″<br>A.Dvořák　交響曲第9番 ″新世界より″ e-Moll, op.95 (B178) |
| | 読書会 | 2日 (火)　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円<br>16日 (火)　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円 |
| | 談話室SAS | 9日 (火)　15:15-17:15　江ノ電第2ビル　4階　会費：1,000円 |
| | SWZ | 18日 (木)　15:00-17:00　ミナパーク５０７　会費：1,000円 |
| | 講演会 | 28日 (日)　14:30-16:30　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　会費1,000円<br>演題：　ドイツの菓子マイスターを目指して<br>講師：　曽根愛氏 (ドイ焼き菓子店「アウスリーベ」経営者)<br>概要：　1990年代ドイツに渡り、ドイツ菓子の製造を修行され、マイスターを取得された講師より、お菓子の話を伺います。 お菓子の試食あり。 |
| 6月 | **見て聴いて楽しむ音楽史(第20回)** | |
| | | 1日 (木)　14:30-16:30　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　会費1,000円<br>演題：　国民楽国民楽国民楽派の音楽(その2)北欧の国民楽派<br>講師：　高橋善彦氏　(会員　湘南日独協会理事)<br>取り上げる曲：Jean Sibelius : Symphony No. 2 in D Major, Op. 43<br>他は未定です |
| | 読書会 | 6日 (火)　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円<br>20日 (火)　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円 |
| | 談話室SAS | 13日 (火)　15:15-17:15　江ノ電第2ビル　4階　会費：1,000円 |
| | SWZ | 15日 (木)　15:00-17:00　ミナパーク５０７　会費：1,000円 |
| | 講演会 | 25日 (日)　14:30-16:30　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　会費1,000円<br>演題：　シルクロードの想い出と篠笛演奏<br>講師：　井出聖子氏 (篠笛作曲、演奏家)<br>概要：　ウズベキスタンのシルクロードの古都サマルカンドへの旅の想い出と、そこで曲想を得て作曲した曲を中心に、篠笛の演奏をし、想い出を語る<br>懇親会：有り |
| 7月の行事は項目のみ記載、詳細は6月に発行予定の次号に掲載予定： | | |
| 7月 | **見て聴いて楽しむ音楽史(第21回)** | |
| | | 6日 (木)　14:30-16:30　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　会費1,000円 |
| | 読書会 | 4日 (火)　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円<br>18日 (火)　15:15-17:15　ミナパーク５０５　会費：1,000円 |
| | 談話室SAS | 11日 (火)　15:15-17:15　江ノ電第2ビル　4階　会費：1,000円 |
| | SWZ | 20日 (木)　15:00-17:00　ミナパーク５０７　会費：1,000円 |
| | 講演会 | 23日 (日)　14:30-16:30　江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　会費1,000円<br>演題：　ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」とその初稿「クジャクヤママユ」<br>講師：　岡田朝雄氏 (ドイツ文学者、東洋大学名誉教授) |

**参加される皆様へ**　参加人数を制限する場合があります　早めにお申込ください
来場の際はマスク着用をお願いします

*各催しは変更される場合があります。